

長野県公立高等学校の新たな入学者選抜制度の概要について

高校教育課

1 制度策定の基本となる考え方（令和3年3月公表）

- ① どのような状況下でも変更がなく確実に実施でき、受検生が安心して臨める仕組みにする。
- ② ①を前提に、学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」）を多面的・総合的に評価することができる制度にする。

2 三次案公表後の状況

三次案公表（令和3年9月）後、12通学区ごとに説明会を実施するとともに、ウェブサイト上に説明動画を掲載し、意見・要望の集約を行った。

意見としては、前期選抜の学力検査、後期選抜の面接といった新たな導入に関するものが多かった。また、要望としては、受検生や学校の負担軽減を求めるものが多かった。

3 現行制度からの主な変更点

(1) 前期選抜への学力検査の導入

前期選抜に、中学校等で学習する基礎的な問題を内容とする学力検査を導入し、学力の3要素を多面的・総合的に評価する。ただし、前期は自己推薦型選抜であることを踏まえ、調査書、面接、学力検査等の評価の比重は適切に定める。

検査内容や出題形式については、令和4年度中に「前期選抜学力検査問題例」を公表する。

(2) 前期選抜の募集枠の拡大

前期選抜は、各校の「募集の観点」に応じた意欲や目的意識の高い志願者が多い。さらに、学力検査を導入することで学力の3要素を多面的・総合的に評価できるようにすることから、募集枠を拡大する。（現行の50%以内から60%以内に拡大）

各校の具体的な募集枠については、令和4年度中に「学校別実施内容（案）」を公表する。

(3) 前期選抜の志願理由書の簡略化

志願理由書はA4判片面1枚を原則に様式を簡略化し、ここに記載された内容の詳細については、面接において確認する。

(4) 後期選抜への面接の導入

調査書・学力検査とともに本人からの直接情報もあわせて受検生の状況を把握し、学力の3要素を多面的・総合的に評価するため、すべての高校で面接を実施する。ただし、人的・時間的制約を考慮し「対面による面接」の確実な実施に困難さが想定される高校は面接シートを用いた「紙上面接」を実施する。

(5) 追加募集の再募集への統合

現行の追加募集は再募集に統合し、定時制課程の再募集については後期選抜の学力検査を受けなかった者も志願可能とする。

(6) 調査書様式の一部変更

入学者選抜に必要な項目を精査し、様式を現行のものから一部変更する。

4 今後の予定

令和4年度の早期に、新制度最初の受検生となる子どもたちに向けた説明資料を中学校等に送付して制度を周知する。また、令和4年度中に「入学者選抜要綱（案）」、「学校別実施内容（案）」及び「前期選抜学力検査問題例」を公表する。

長野県公立高等学校
新たな入学者選抜制度（案）

長野県教育委員会
令和4年(2022年)3月

はじめに

1 検討の経緯

長野県公立高等学校入学者選抜制度の検討については、新型コロナウイルス感染症への対応に鑑み、令和2年9月、現小学校6年生が受検する令和7年度選抜から導入することを決定し、令和3年3月、制度検討の方向性を次のように示した。

どのような状況下でも変更がなく確実に実施でき、受検生が安心して臨める選抜の仕組みにする必要がある。これを前提として学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」）を多面的・総合的に評価することができる制度となるよう検討を進める。

これを踏まえて検討し、令和3年5月に示した制度案たたき台について寄せられた意見一つひとつを精査し、同年9月、制度第三次案を公表した。その後、県下12ヶ所における説明会を開催するとともに、ウェブサイト上に制度案の説明動画を掲載し、寄せられた意見をあらためて精査し、今回の制度決定に至った。

2 現行制度からの主な変更点

(1) 前期選抜への学力検査の導入

入学者選抜は中高接続の重要な結節点であり、すべての受検生にとって、中学校等で学ぶ教科の基礎力は高校で学ぶ上で非常に大切なものである。このことから、前期選抜に中学校期における基礎学力の定着を確認するための学力検査を導入する。ただし、前期選抜の趣旨を踏まえ、調査書・面接・学力検査等の評価の比重を適切に定める。また、学力検査の出題形式は選択式、短答式を主とする。

(2) 前期選抜の募集枠の拡大

前期選抜は、各校の募集の観点に応じた意欲や目的意識の高い志願者が多い。さらに、学力検査を導入することで学力の3要素を多面的・総合的に評価できるようにすることから、募集枠を拡大する。

(3) 前期選抜の志願理由書の簡略化

志願理由書はA4判片面1枚を原則に様式を簡略化し、ここに記載された内容の詳細については、面接において確認する。

(4) 後期選抜への面接の導入

調査書・学力検査とともに本人からの直接情報もあわせて受検生の状況を把握し、学力の3要素を多面的・総合的に評価するため、後期選抜においてもすべての高校で面接を実施する。ただし、コロナ禍の教訓を踏まえ、変更のない確実な実施という観点から人的・時間的制約を考慮し、確実な実施体制を整えることができる高校は「対面による面接」を実施し、「対面による面接」を実施することに困難さが想定される高校は「紙上面接」を実施する。

(5) 追加募集の再募集への統合

定時制課程の追加募集は再募集に統合し、後期選抜の学力検査を受けなかった者も定時制課程の再募集に志願できるようにする。

(6) 調査書の様式変更

入学者選抜において必要な項目等を精査し、様式を一部変更する。

3 今後の予定

令和4年度の早期に、新制度最初の受検生となる子どもたちに向けた入学者選抜に関する説明資料を中学校等に送付して制度を周知する。また、令和4年度中に「入学者選抜要綱（案）」、「学校別実施内容（案）」及び「前期選抜学力検査問題例」を公表する。

1 前期選抜〔志願:2月上旬 受検:2月上旬 発表:2月中旬〕

(1) 実施校について

前期選抜の実施校は、定着状況を踏まえ、現行制度で前期選抜を実施している学校・学科での継続実施を原則とする。

(2) 募集枠について

- ① 募集枠は募集定員の60%以内とし、各校が設定する。
- ② 特色学科¹⁾は90%以内とする。

(3) 入学志願について

- ① 各校が設定する募集の観点に応じて志願を行う。
- ② 志願理由書はA4判片面を原則とし、できるだけ簡略なものとする。
- ③ 志願時に入学を辞退しない旨の確約を行い、確約書の提出を求めない。

(4) 選抜資料について

- ① 調査書
すべての記載内容を選抜資料とする。
- ② 面接
「対面による面接」を実施し、その結果を選抜資料とする。
- ③ 学力検査²⁾
5教科 200点満点の学力検査を実施し、その結果を選抜資料とする。検査は中学校3年生の概ね12月までに学習する基礎的な内容からの出題とし、形式は選択式、短答式を主とする。
- ④ 作文（小論文）、実技検査
一部の学校・学科では作文（小論文）又は実技検査を実施し、その結果を選抜資料とする。

(5) 選抜方法について

- ① 選抜資料（上記(4)の①～④）を用いて総合的に判定する。
- ② 調査書、面接、学力検査、作文（小論文）、実技検査の比重については各校が決定する。

(6) 今後の公表について

- ① 各校の募集枠、実施内容及び評価方法（評価の比重も含む）について、令和4年度中に「学校別実施内容（案）」を公表する。
- ② 前期選抜学力検査の内容や形式、検査時間等の詳細について、令和4年度中に「前期選抜学力検査問題例」を公表する。

1) 本県における「特色学科」とは、高等学校設置基準第六条における「専門教育を主とする学科」のうち、農業、工業、商業、水産、家庭、情報、福祉以外の学科で、現時点においては、理数科、探究科、学究科、国際教養科、国際観光科、スポーツ科学科、音楽科をさす。

2) 「学力検査」とは、長野県教育委員会において作成し、全県共通で行われる検査をさす。

2 後期選抜 〔志願: 2月下旬～ 志願変更: 3月上旬 受検: 3月上旬～中旬 発表: 3月中旬～下旬〕

(1) 実施校について

後期選抜はすべての学校・学科で実施する。

(2) 募集人員について

各校の募集人員は、募集定員から前期選抜における入学予定者数を除いた数とする。

(3) 選抜資料について

① 学力検査

国語、数学、社会、理科、英語（リスニングテストを含む）の学力検査（各教科 50 分・100 点満点）を実施し、その結果を選抜資料とする。

② 調査書

すべての記載内容を選抜資料とする。教科の成績については、調査書に記載されている中学校第3学年の評定と学力検査結果との相関図を作成し、調査書の記載内容と併せて選抜資料とする。

③ 面接

確実な実施体制を整えることができる高校は「対面による面接」を実施し、それ以外の高校は面接シートを用いた「紙上面接」（10分）を実施する。「対面による面接」は学力検査翌日の実施を原則とし、「紙上面接」は学力検査当日に実施する。面接の結果は選抜の参考資料とする。紙上面接の日程及び面接シートは全県共通とし、事前に公表する。（面接シートについては5を参照）

④ 作文、実技検査

一部の学校・学科では作文又は実技検査を実施し、その結果を選抜の参考資料とする。作文・実技検査の実施等については各校が決定する。

(4) 選抜方法について

① 上記(3)の①～④の資料を用いて総合的に判定する。

② 専門学科における、特定の教科に比重を置いた傾斜配点による選抜の実施については、各校が設定する。

(5) 再募集について

① 募集人員：募集定員から入学予定者数を除いた人数とする。

② 志願対象：後期選抜の学力検査を受けた者のうち、入学予定者とならなかった者。ただし、定時制課程については、後期選抜の学力検査を受けなかった者も志願できる。

③ 実施内容：各校が設定する。ただし、定時制課程の再募集志願者のうち、後期選抜の学力検査を受けなかった者については筆記試験を実施する。筆記試験問題は各校で作成する。

④ 選抜方法：後期選抜に準じて行う。筆記試験の結果は選抜の参考資料とする。

⑤ 現行制度の追加募集（定時制課程において実施）は再募集に統合する。

(6) 今後の公表について

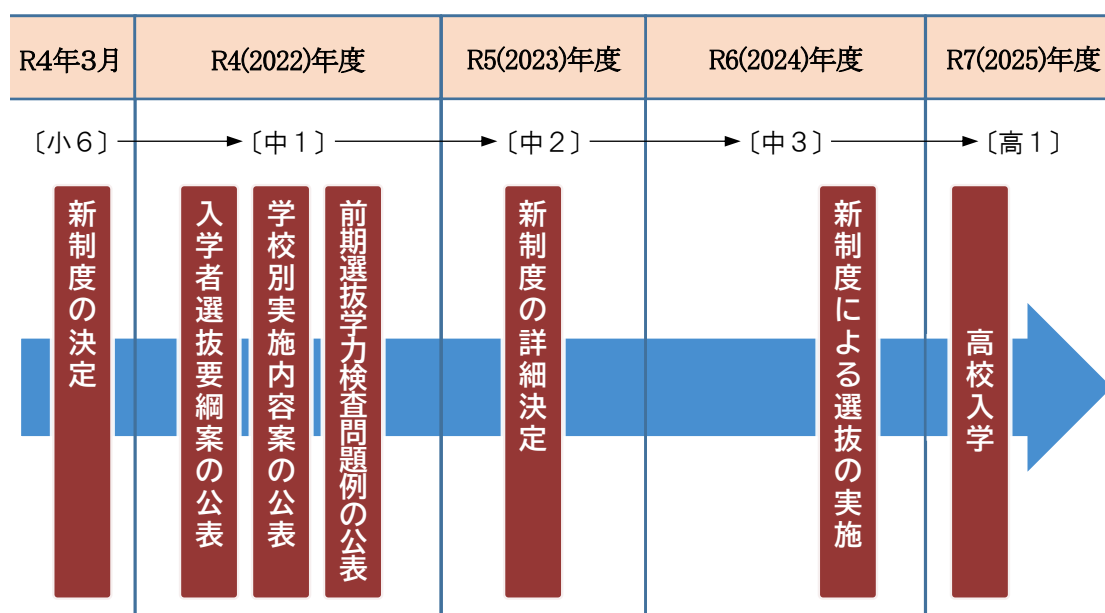
① 各校の実施内容（面接方法、作文や実技検査・傾斜配点の有無等）について、令和4年度中に「学校別実施内容（案）」を公表する。

② 紙上面接の日程及び面接シートは全県共通とし、入学者選抜要綱において示す。

3 制度に係るその他の事項

- (1) 調査書について、入学者選抜において必要な項目を精査し、様式を一部変更する。
(6を参照)
- (2) 不登校生、帰国子女や外国籍の者、障がいのある者等の受検について、中学校等と高校との連携を十分に図りながら、当該受検生の状況把握に努め、これまで以上に配慮した選抜とする。
- (3) 後期選抜の追検査については、新型のウイルスやインフルエンザ等への対応として実施する。実施時期については状況に応じて検討する。
- (4) 隣接県から通学可能な生徒の受け入れについては、現行制度の考え方を基本として関係各県との協議を進める。
- (5) 選抜事務におけるICT機器等の活用については、その有効性と信頼性を確認の上、段階的に導入する方向で研究を進める。
- (6) 新制度について、受検生や保護者、学校等への周知に努めるとともに、引き続き、受検生や学校の負担軽減の方法について検討する。
- (7) 制度の細目や運用については、県立高等学校入学者選抜要綱に定める。

4 今後のスケジュール



5 紙上面接で用いる面接シート（案）

【評価】 ○ が2つ→A、○ が1つ→B ○ がなし→C
・文章の巧拙、誤字脱字、文字数は問わない。

| | |
|------|--|
| 志望校名 | |
| 受検番号 | |

これは、質問に対して記入して答える形の面接です。
次の各質問に答えてください。

(※欄は記入しない。)

(行が足りない場合は、裏面に書いてもかまいません。)

※

- 1 これまで、学校での学習や学校内外での活動の中で、関心を持って取り組んだことと、その中で学んだことは何ですか。

※

- ◆ これまでの学習や活動を振り返る記述があれば ○
◆ 振り返りの記述がない、または無記入の場合は ×

- 2 高校で何を学んだり、何に取り組んだりしてみたいですか。

※

- ◆ 高校入学後の抱負（学び等に対する姿勢）の記述があれば ○
◆ 抱負の記述がない、または無記入の場合は ×

- 高校に伝えたいことや理解してほしいこと、自己ピーアールなどを自由に記入してください。

(記入した内容によって、選抜で不利になることはまったくありません。)

- ◆ この項目は選抜の評価対象外
・記述内容による有利不利はない。
・無記入でもかまわない。

6 調査書（案）

（用紙寸法A4）

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|--------------------------|-----------------------|----|----|----|----|----|----------|-----------|-----------|---------------------------|-------|
| 受検番号 | | | | | | | | | | | 学習成績一覧表番号 | | |
| 令和 年度 調 査 書 | | | | | | | | | | | | | |
| A 生徒 | ふりがな 氏 名 | | | | | | | 性別 | 年 3月 | | | | 卒業見込み |
| | | 年 月 日生 | | | | | | | 中学校 | | | | 卒業 |
| B 出記録・健康の | 学 年 | 欠席日数 | 欠席の主な理由 | | | | | | | 健康の状況 | | | |
| | 1年 | | 遅刻・早退の状況は 記入する必要なし | | | | | | | | | | |
| | 2年 | | | | | | | | | | | | |
| | 3年 | | | | | | | | | | | | |
| C 各教科の学習の記録 | 学 年 | 教科名 | 国語 | 社会 | 数学 | 理科 | 音楽 | 美術 | 保健 体育 | 技術・ 家庭 | 英語 | 備 考 | |
| | 1年 | | | | | | | | | | | 3年次「評定1」と「*」 の理由はここに記載 | |
| | 2年 | | | | | | | | | | | | |
| | 3年 | | | | | | | | | | | | |
| D 総合的 な学習 記録 | | | | | | | | | | | | | |
| E 特別 記録 活動 | 1年 | 客観的な事実の 端的な記載でよい | | | | | | | | | | | |
| | 2年 | | | | | | | | | | | | |
| | 3年 | 【例】(学級)〇〇〇係 / (生徒会)△△△委員 | | | | | | | | | | | |
| F 総合 参考 所と なる 及び 諸 指 導 上 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別活動等について、特記事項があればここに記載 ・ 「不登校生に関する事項」や「過年度卒業者の中学校卒業後の学習の状況」はここに記載 | | | | | | | | | | | | |
| 上記の記載事項には誤りがないことを証明します。 | | | | | | | | | | | | | |
| 年 月 日 | | | | | | | | | | | | | |
| 学 校 長 | | | | | | | | | | | | 印 | |

新たな入学者選抜制度に関するQ & A

前期選抜について

- Q なぜ、前期選抜に学力検査を導入するのか。
Q 学力検査の内容は基礎・基本というがどの程度なのか。

A 前期選抜は、多様な個性・資質・能力を多様な尺度によって評価できるように導入しましたが、決して教科の学力が不問というものではありません。学びの中高接続の観点から、全ての受検生にとって教科の基礎的な学力は高校で学ぶ上でたいへん重要なものです。そこで、基礎学力の定着を確認することを目的とした学力検査を導入し、前期選抜でも学力の3要素を多面的・総合的に評価したいと考えています。
内容は、教科の基礎・基本問題で、教科書の例題にあるような問題を考えています。子どもたちには日々の授業や家庭学習を大切にしてほしいと思っています。

- Q 学力検査は200点満点ということだが、各教科の配点や検査時間はどうなるのか。
Q 学力検査が導入されることで、前期選抜も2日間になるのか。

A 前期選抜学力検査の配点は1教科40点満点×5教科、検査時間は後期選抜のように各教科50分ではなく短い時間設定にする予定ですが、詳細については、令和4年度中に問題例の公表に合わせてお示ししたいと考えています。
学力検査は全県同時に実施します。検査時間は後期選抜に比べて短くなる予定ですが、受検生が多い高校では受検日が2日間になる場合もあります。

後期選抜について

- Q 主体性を評価することは難しいのではないかと思うが、後期選抜で実施する面接で差がつくのか。面接のためにどのように受検準備をすればいいのか。

A 主体性の評価は難しいものであると承知していますが、差をつけるためということよりも、学びを高校へとつなげていくために、回答からその子なりの主体性や意欲を確認したいと考えています。
子どもたちには、面接のための特段の準備をするというよりも、中学校等の3年間を通して、その子なりに、自らを振り返り自分で判断・決定し行動する姿勢や、自分の言葉で表現できる力を身につけていくことを大切にしてほしいと思っています。

受検生への配慮について

- Q 本人の特性から、授業などで書くかわりにタブレット端末を使用している生徒がいる。障がいのある受検生への配慮はどの程度までしてもらえるのか。
また、当日の突発的な心身不調などにも対応してもらえるのか。

A 中学校等での個別の指導計画等に基づいた計画的・継続的支援をもとに、学校間で連絡を取り合いながら合理的配慮について検討をします。また、当日の急な要望にも、公平性・妥当性を判断し、人的・物的に可能な限りの配慮をします。